

あしたの風

編集・発行：男女共同参画あきたF・F推進員、大湊村
2017.3 発行

日本女性会議 2016 秋田に参加しました



「日本女性会議」は、男女共同参画に関する国内最大の会議として、女性を取り巻く課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流促進やネットワーク化を図ることを目的に30年以上にわたり様々な都市で開催されています。

秋田大会では、記念講演、シンポジウム、分科会、エクスカージョン（体験型見学会）などが行われました。大湊村からも多くの方が参加していましたので、それぞれの感想等ご紹介いたします。

第1分科会『女性たちの今。そして未来をつくる。女性参政権から70年 雇用機会均等法から30年』に参加して

あきたF・F推進員 柏 雄子

昨年10月、秋田市で日本女性会議が開催されました。男女共同参画に関する国内最大の会議として、30年以上にわたり、男女共同参画社会の実現に向けた課題に取り組む会議です。大湊村からも参加し、全国の方々と交流を図りました。

分科会では、以前大湊村でも講演いただいた、上野千鶴子さんの「人権」についての講演、対談に会場は「一言も聞きもらさないぞ」という熱い雰囲気を感じられました。

女性たちの今、そして未来をつくる、女性参政権から70年、雇用機会均等法から30年、女性の参政権獲得に奔走した、山川菊枝さん、70年たった今でも市川房枝さんの「権利の上に寝るな」という言葉は、女性たちの指針として深く心に届きました。女性が選挙に行けるのは、当然の権利ではなかったのです。

戦って獲得しなければ、変わらない、言わなければ変わらない、何かがへんと感じたら、黙っていないで発言することですと仰った。

女性たちが、最初の一步をふみだす、具体的なこととして、イヤなことはイヤという、問題の当事者になる、

この指とまれの一步をふみだす、同意を巻き込む（ネグロキグ）、資源を調達する、勝ちぐせをつける、意思決定は楽しい など

女性たちも力をつけてゆく大切さをお話しされました。

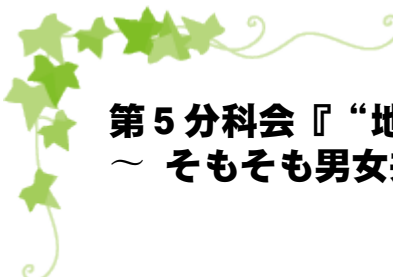
女性の働き方を示した、男女雇用機会均等法もまた30年たっただけで、その後の法改正でも、非正規や使い捨て労働力の助長となり、男並み総合職と日本型雇用は諸悪の根源、家族賃金は女性の敵であると、痛烈な分析でした。

だが処方はあると！

①労働時間の短縮、②年功序列の廃止、③同一労働同一賃金の確立、そしてもう一つの選択肢として④起業して生きる（NPO市民事業）など、志と体力さえあれば、女性の働き方を変えることが出来ると話されました。

男女がともに社会を支えるのにも関わらず、意思決定の場には女性が極端に少なく、性別役割分業意識もなかなか変わらない状況です。個人が尊重され、弱者になっても尊厳をもって生き続けられる社会とはどのような社会なのか、だれもが自分らしく暮らしていける社会をどのように築いていくのか、これからも、何かが変と感じたら、一步ふみだしたいと感じました。





第5分科会『“地域消滅”トッランナー秋田の「今」と「これから」 ～ そもそも男女共同参画って何? ～』に参加して

あきたF・F推進員 近藤 正

「みつめて みとめて あなたと私 ～多様性（ダイバーシティ）とは～」をメインテーマに「日本女性会議2016秋田」が開催され、「地域づくり」の第5分科会に参加しました。高齢化・過疎化で機能が低下・衰退する地域組織に、若い女性が参画するとどんな変化と可能性が生まれるのか。自治会長と消防団員という地域組織で中心的な役割を果たす二人の秋田女性をパネラーに迎え、自らも成長するとともに、地域が女性のしなやかな力で活気を取り戻す、“男女共同参画”の必要性を実証する事例が紹介されました。

能代市で自治会長を引き受けた主婦、能登さん。男社会の中で戸惑いながら、地域の要望の実現に答え取り組みをつくりあげ、人間らしい優しさを地域に取り戻します。信頼が求心力となり年配者の知恵と助けを礎に地域が繋がり、ついに地域緘出の除雪作業を復活するまでに元気を取り戻します。

仙北市の西宮さんは消防団という男社会に加わった戸惑いと苦勞を乗り越え、ついには女性でなければできない役割に次々と気づき消防団の地域貢献度を高めます。救急救命士の資格を取得し、女性患者さんへの対応や救急訓練での生徒の主体的な参加誘因など女性が必要とされる場面は実に多く、男社会だった団や地域が変わり、理解と信頼が高まる様子が紹介されました。

両事例の共通点は、先入観を活動の中で本人も組織も克服し、女性の参画が地域や社会のつながりを信頼の糸で有機的に紡いだ点です。認め合と助け合の輪が生まれ老若男女、一人一人が主体的に参画でき役割を果たし新しい組織に生まれ変わる。組織が機能を取り戻す様子が生き活きと語られた感動的な分科会でした。

男社会で当り前に排除されてきた女性こそが未来への希望を生む力を育み蓄えてきたこと、男性も女性もそれに気付くときが来たようです。単に女性が男性に取って代わり強くなるイメージとは全く違う世界でした。家庭や地域、職場などの現代社会は、“格差”“自己責任”“使い捨て”・・・で疲弊し、慣れと諦めの雰囲気はまだ覆われています。ですが、命を生み育てる母親やそれを支えてきた女性がもつ生命の尊厳とそこから生まれる豊かな希望には、社会を変え人を救う力、憲法に命を吹き込む力があります。信頼の輪が大きな原動力となり、やがて子供という未来と希望に伝わる。そんな事例が秋田に、すぐ隣町にありました。これこそが“男女共同参画”の本質では、と感じました。



来年度開催地は北海道苫小牧市!!

次回開催都市は、北海道苫小牧市です。

日本女性会議2017とまこまいの大会テーマは「北の大地で語ろう これからの未来の一步を」。男女平等参画社会を目指すために、今からできること、そして未来へつなぐための一步になることを語り考える大会を目指して現在準備中です。



あきたF・F推進員とは??

「F・F」は、仕事や家庭、社会へ男女が共に協力し合いながら参画しあうという意味を込めた『Fifty・Fifty』の略です。F・F推進員は、男女共同参画社会の実現に向けて各市町村での取り組みや地域活動が活発に行われるよう、推進的な役割を担うリーダーで、現在、大湯村には3名のF・F推進員がおります。





日本女性会議 2016 秋田に参加して

大湯村男女共同参画推進委員 F. S.

日本女性会議が秋田市で開催され、参加できたことは嬉しいことでした。

今回は多様性を認めあうということがテーマでした。

基調報告では、女性の地位を経済・教育・政治・健康の4分野で分析する「ジェンダーギャップ指数」が日本は144カ国中111位、政治分野では女性議員の少なさが影響して103位、経済分野では男女の所得格差が影響して118位。順位引き上げにはポジティブアクションが必要とのことでした。

続く記念講演。ヘアメイクアーティストの藤原美智子さんのお話でした。講演という形は初めてということでしたが、個性を引き出し、活かすプロで、とてもよかったです。

交流会は、男女共同参画をめざす仲間が全国各地から集まり、熱気でいっぱいでした。次回開催地の苫小牧市は「男女平等参画都市」を宣言していると、誇らかに宣伝していました。

人権をテーマにした第1分科会では、上野千鶴子氏のお話を伺いました。

1985年雇用機会均等法ができたが、女性たちは男女雇用平等法を望んだのに、機会平等とされ、しかも実効性のない法律だった。そして同年に労働者派遣事業法が成立し、その後の改正により、非正規雇用の増大へと繋がった。

労働時間短縮、年功序列制度の廃止、同一労働同一賃金にしなければならない。

婦人に参政権が与えられたと言っても、1989年のマドンナ選挙と呼ばれた頃になってようやく、家族票から個人票へと変わった。

言わなきゃ変わらない、戦って獲得する。一步踏み出す形での怒り方をする。

もちより家計で、シングルインカムに頼らない。 など

大いに示唆をいただきました。

最後に上野氏と大学生、シングルマザーの方との対談がありました。学生の話聞いて、まだまだ既成概念にとらわれているのかな、と感じました。これは人間らしい生き方のロールモデルがない現状ゆえによることなのかと思いました。

大会の最後には大会宣言が行われました。



私たちは、秋田大会のテーマ「みつめてみとめてあなたと私～多様性（ダイバーシティ）とは～」に、さまざまな思いや考え方の違いを尊重して受け止め、性別や年齢、職業、国籍、障がいなどをこえて、一人ひとりがこうありたいと望む姿に少しでも近づくことができる、多様性を認める社会をつくるため、今、ここから行動したいという思いを込めました。

現在、男女共同参画社会の実現と女性の活躍の推進を図る気運が高まり、女性が輝くステージが広がる一方で、さまざまな場で依然として、偏見や差別に苦しみ、自分らしく生きることができない人や、それが難しい人は決して少なくありません。

大会期間中、私たちは、厳しい人口減少と少子高齢化が進行する秋田において、だれもが幸せで豊かに暮らせる社会を築くために何が必要かについて思いを巡らせ、「自分の思い」を伝えること、そして「あなたの思い」を受け止めること、そのどちらも共に大切であるということについて、考えを深めてきました。

ここに、私たちは、宣言します。

私たちは、互いに尊重しあい、一人ひとりの個性や能力が発揮できるよう、まず自らを見つめ、自分自身の中にある偏見や差別に真摯に向きあいます。そして、人と人との間にあるこうした壁や厳しい現実から目をそむけずに、率直に人と接することから始めます。

私たちは、多様性を受け入れることから始まる、すべての人が自分らしく暮らせる成熟したまちづくり、地域づくりを目指します。

私たちは、だれもが豊かな暮らしを実感できるよう、それぞれの思いを伝えあい、気遣いあう社会を目指し、一人ひとりができることをできるところから行っていきます。

私たちがはじめる秋田からのささやかな取り組みが、次世代に引き継がれ、そしていつの日か、だれもが笑顔で暮らせる真に多様性を認めあう成熟した社会が実現することを強く望みます。そして、今、ここから、その実現に向けて行動します。

【日本女性会議2016秋田HPより】



平成28年度男女共同参画一般講座 開催

2月15日に、平成28年度男女共同参画一般講座が開催されました。今年度は、あきたAT研究会の高橋静子先生と渡辺好子先生をお迎えして、「自分も相手も大切に作るコミュニケーション～アサーティブ・トレーニング入門～」というテーマです。

「アサーティブ」

みなさん、耳にしたことがあるでしょうか？私は初めて耳にする言葉でしたが、意味は「自分も相手も大切に、尊重しながら自分の意見・考え・気持ちを正直に表現するコミュニケーション」を指すのだそうです。

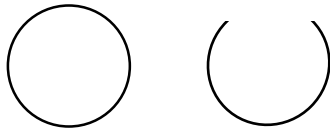
コミュニケーションの基本は、お互いを思いやる気持ち。

わかっている、ついつい感情的になってしまったり、相手に伝わらない言葉を選んでしまったり（長々と話を聞いても、“だから何？”って思うことはよくあります）。気持ちを伝えるツールは世の中に次々と生まれているのに…自分の気持ちを上手く伝えられなくてモヤモヤする。今回の講座は、そういった誰もが一度は経験したことのある気持ちを解消するためのスタート地点に立てる講座でした。

先生はとてもパワフルかつお話し上手な方で、最初は少し硬かった講座の雰囲気もあつという間にうち解けた空気に変えていらっしまいました。

それでは、講座の内容を少しだけご紹介したいと思います。

みなさん、下の図を見てどう思いますか？？



講座の中で、先生が「どちらの図が気になりますか？？」と問いかけたところ、私を含め参加者の多くの方は右の欠けている方が気になると答えました。

ここから先生がおっしゃったのは「人は欠けているものに目がいってしまう、つまり、欠点が気になってしまうもの」だということです。この指摘には、なんだかはっとさせられました。たしかに。納得。

グループワークの中で、相手の短所を長所として表現するとどうなる？？というお題があったのですが（もちろん長所と短所は自己申告です）、短所に「物覚えが悪いこと」をあげていた人に「それはこれから努力ができるということ。伸びしろがあるということ。」と表現している方がいらっしまいました。素直に素敵な表現だなんて思えて、ポジティブ変換を日常に上手く取り入れられたら、自分の気持ちが軽くなるように感じられました。

また、講座のまとめでは、相手の心の根底にある感情を汲み取ること、たとえば、「怒り」の下にある「心配」や「不安」に気づき、共有、共感することではじめて問題の本質が見えてきて、解決へと向かっていくというお話もありました。相手を理解することは、自分自身への理解にも繋がっていくので、心に留めて、少しずつ実践していきたいと思います。

（講座参加者）



* 編集後記 *

「男女共同参画」という言葉から、「女性の人権や地位改善」をイメージする方が多くいらっしいると思います。歴史的な背景からそれは間違ったイメージではないと思いますが、そのような中で、男性もまた固定的な概念、しがらみの中での生きづらさを感じていたのではないかと考えています。

性別によって私たちの行動や生き方が制限されることなく、多様性を認め合って、それぞれがそのらしく生きていける社会づくりについて、この通信誌をきっかけに、考えていただけたら幸いです。

（住民生活課 住民福祉班 担当者）

【各記事に関するお問い合わせ先】

大潟村 住民生活課 住民福祉班 TEL:0185-45-2114 FAX:0185-45-2162